

日本企業のデジタルプラットフォームビジネス についての一考察

松井 海都

【要旨】

本論文では日本でのプラットフォームビジネスに注目し新たな考えを提示すること、プラットフォームの最新の環境をまとめること、その過程の中で新たな考えの提唱を行うこと、プラットフォームの定義の提示を新規性として示している。

初めにプラットフォームとはどのようなものなのかを明らかにするために様々な先行研究を参考にして独自の定義の提唱とその強さの根源についての理解を深めている。

次にエコシステムに着目し、エコシステムとプラットフォームの関係性からプラットフォームの持つ影響力を明らかにしている。

次にデジタルプラットフォームについて定義付けを行い、ネットワーク効果とビッグデータとの関わりについて言及している。

次に日本のデジタルプラットフォームに着目し、GAFAとの比較、分析を行う。そして日本のデジタルプラットフォーマーが取るべき戦略について述べている。

最後に本研究の意義の再提示と研究の課題点について述べている。

【講評】

本稿は、ネット時代の新たなビジネスモデルとして注目されているプラットフォームやエコシステムなどと呼ばれる組織間関係の現象に着目し、多面的な視点から分析している点は高く評価することができる。その多面的な分析の基盤になっているのが、学部生のレベルを超える厚い理論研究である。さらに、理論の持つ現実的な説明力を検証すべく、多様な事例を用いることで理論と現実の相互作用を捉えようとする姿勢も評価することができる。その一方で、本稿では次のような課題も存在する。まずは、基本的な参考文献の取り扱いなどにミスがみられことである。内容が良くても、基本的なミスがあれば論文の価値そのものを下げることになるので丁寧な校正が必要である。もう一つの課題は論理構成である。研究目的が日本企業へのデジタル戦略についての新たな提案であることから、最後の章で海外企業と比較分析するのではなく、事前に比較基準を明確にした上で、デジタル戦略の有効性を議論していくべきだったと考えられる。しかし、以上の課題は本論文の優秀性を損なうものではない。